
LanSchool® 7.2

教室管理ソフトウェア

ユーザーズ・ガイド

目次

目次	2
LanSchool v7.2 の概要	3
サポート環境	4
テクニカル サポート	5
はじめる前に	6
インストール	7
LanSchool の仕組み	8
教師コンピュータを使う	9
生徒用コンピュータの概要	10
ユーザインターフェースのヒント	11
LanSchool v7.2 の新機能概要	14
LanSchool v7.2 の機能概要	16
LanSchool のセキュリティ モニタリング	24
LanSchool の構成オプション	25

LanSchool v7.2 の概要

LanSchool v7.2 をお買い上げいただきありがとうございます。LanSchool v7.2 は、コンピュータベースの教室の学習環境をより良いものにしようとする先生方を支援するよう作られた、評価の高いソフトウェア プログラムです。

教室の各コンピュータに LanSchool をインストールすると、教師側には次のような機能が備わります：

生徒の注意が散漫になるのを防ぐ

生徒のコンピュータ上で、画面をブランクにする、アプリケーションを制限する、Web のブラウズを制限する、USB ドライバの使用を制限する、印刷を使用できなくするといった各機能をクリックして、生徒の注意が散漫にならないようにすることができます。生徒の注意力をコンピュータから教師に向けるようにし、生徒を課題に集中させるのに役立ちます。

やり方を実際に示す

「教師を示す」機能を使うと、生徒は教師のコンピュータに起こっていることを、自分のモニターから見るすることができます。これは実演にも最適ですし、コンピュータのアプリケーションの使い方を学生に教える上で理想的な機能です。

生徒をモニタする

教室という設定内で生徒の活動を監視するのに理想的です。サムネール機能を使えば、生徒全員または任意の生徒の画面を見るだけでなく、生徒が現在実行しているアプリケーションとウェブサイトを見渡すことができます。

生徒の理解を評価する

生徒は、授業の途中で質問を投げかけたり、長めのクイズやテストをすることもできます。（Mac 対応の LanSchool 生徒用ソフトウェアではまだ利用できません）

生徒を個別にヘルプする

生徒は先生から黙って「ヘルプ」を要求することができます。ログイン名に小さな質問マークが表示されたら、生徒がヘルプを必要としていることを意味しています。教師は、その時点で、生徒の質問を使ってチャットするか生徒のコンピュータをリモートコントロールするかして生徒を支援します。

サポート環境

LanSchool v7.2 は、以下のオペレーションシステムおよびシンクライアントの組み合わせで動作します。

Windows* 98、Windows ME、Windows 2000、Windows XP-32、Windows Vista-32、Windows 2003 ターミナルサーバ、Citrix、NComputing、Mac OS 10.4 および 10.5。

唯一の例外は、LanSchool 教師用コンソールで、Windows をパラレルズまたは VMWare で実行していない限り、Mac のオペレーションシステムでは動作しません。Mac コンソールは 2009 年中旬に利用できるようになる予定です。

教師用、生徒用コンピュータの両方について、LanSchool の動作に必要な最低要件は以下の通りです。

プロセッサ

PC:166 MHz Intel® Pentium® プロセッサ以上

Mac:700 MHz PowerPC G4、G5 以上、全 Intel-based Mac

RAM

- 48 MB / Windows 98 の場合
- 96 MB / Windows 2000 の場合
- 128 MB / Windows XP の場合
- 256 MB / Windows Vista の場合
- 512 MB / Mac OS 10 の場合

プロトコルスタック

LanSchool が動作するすべてのコンピュータは、静的または動的 IP アドレスを実行する TCP/IP で設定されている必要があります。エンタープライズクラスのアクセスポイントを推奨しますが、802.11 のワイアレスにも対応しています。

テクニカル サポート

LanSchool 製品の一部として 3 年間の無償技術サポートが含まれています。サポートは次の 3 つの方法でご利用ください：

ワールドワイドウェブ

ワールドワイドウェブ LanSchool についての最新の情報や、Q&A、ホワイトペーパー等については、当社ウェブサイト <http://www.lanschool.com> を参照してください。

電子メール

ご質問は、電子メール (support@lanschool.com) にてお寄せください。

電話

営業時間内 (米国山岳部時間帯) に、(877) 370-5546 (米国内通話無料) までご連絡ください。

当社のテクニカル・サポートに関する方針は業界最高水準を誇ります。電話または電子メールを使っただけの数回のやり取りでも LanSchool の問題を見つけて解決できない場合には、北米中のどこであっても当社の技術者が駆けつけ (当社費用)、問題を解決します。この「オンサイト」サポートは、30 日間のデモ版ソフトウェアの場合であっても対象となります。当社のソフトウェアの品質の後ろには私たちが控えています！

はじめる前に

LanSchool v7.2 の製品 CD またはダウンロードした eCopy には、LanSchool v7.2 アプリケーションをインストールするのに必要な実行可能ファイルと、LanSchool v7.2 インストール・ガイド(**INSTALL.PDF**)、LanSchool v7.2 ユーザーズ・ガイド(**USERS.PDF**)が含まれています。

どちらのガイドも、Adobe Acrobat* .PDF ファイル形式で作成されており、閲覧または印刷には、Acrobat Reader*が必要です。Acrobat Reader は、ダウンロードした LanSchool の Acrobat フォルダに格納されています。また Adobe のウェブサイト <http://www.adobe.com> から無料で入手することができます。

インストール

教室のコンピュータに LanSchool がまだインストールされていない場合は、LanSchool 7.2 インストールガイド (INSTALL.PDF) を参照してください。LanSchool のインストールが完了したら、このガイドに従って製品の利用を開始してください。

LanSchool の仕組み

コンピュータベースの教室の中で、教師がすべての生徒コンピュータをコントロールできるようにすることで、LanSchool は動作します。

教室のすべてのコンピュータが確実に同じコンピュータ画面を見ているようにするために、LanSchool は教師「チャンネル」を利用します。ちょうど、別々のテレビが、同じテレビのチャンネルで同じ番組を見るのと同じです。LanSchool には 16,000 もの選択可能な教師チャンネルがあります。つまり、LanSchool を使えば、16,000 もの教室を常時利用できるということです。

LanSchool を設定する上で最も理にかなった方法は、各クラスあるいは教室が、教師コンピュータ 1 台だけでなく、それぞれ独自の教師チャンネルを確保していることです。このセットアップにより、同じ教室のコンピュータのすべてが互いに交流でき、1 人の教師が全教室をコントロールできるようになります。

しかし、マンツーマンの学校に対応するバージョンの LanSchool もあります。(各生徒と先生が 1 台ずつ個人のコンピュータを持つ学校です。)) マンツーマン型の LanSchool がインストールされている場合、生徒にはチャンネルへの参加、退席の能力があります。

教師の方は、生徒がクラスに参加したり退席したりするのをモニタすることができます。教師はまた、現在クラスにいる生徒のリストを、前に保存したクラスのリストと対比させることもできます。これにより、欠席している人や、加わるべきではないのにクラスに加わっている人を簡単に確認できます。

教師コンピュータを使う

LanSchool 7.2 の使用モデルは、これまでのバージョンとほとんど同じです。生徒コンピュータ上では、システムトレイ内に小さな LanSchool アイコンが表示されます（小さな緑色の多重の円のようなアイコンです）。システムトレイは、コンピュータ画面の右上部隅にあります。このメニューを使って LanSchool の主要な機能をコントロールします。

詳細な諸機能は、LanSchool コンソールにアクセスした場合に利用可能になります。コンソールには、LanSchool システムトレイアイコンを左クリックするとアクセスできます。

コンソールでは、主要な機能がツールバー上にアイコンとして表示されます。すべての機能にメニューからアクセスできます。また、コンピュータ上またはサムネール上でマウスを右クリックしても、主要機能にアクセスできます。

コンピュータまたはサムネールを選択する場合、すべてのコンピュータを選択するには「**CTR+A**」を選択するか、「**CTR**」キーを押したままでコンピュータのグループを1つずつ選択していくことをお奨めします。サムネール表示内では、マウスで選択するだけで複数のコンピュータを選択できます。

ツールバーを使用する際は、クリックは1回で機能を使用可能にし、ボタンを押すことになります。もう一度クリックすると機能は無効になります。

生徒用コンピュータの概要

LanSchool は、生徒コンピュータ上のバックグラウンドで実行するよう設定されます。すべての機能は教師コンピュータでコントロールされますので、教師側は使用状況を制御できます。

LanSchool 生徒のアイコン

コンピュータ画面の右下隅のシステムトレイ中に、LanSchool 生徒アイコン（緑色の多重の円のようなアイコン）が表示されます。カーソルをアイコンの上に置くと、コンピュータが使用している教師チャンネルが表示されます。

生徒がこのアイコンをシングルクリックすると、先生からのヘルプを要求することができます。生徒が質問をタイプすると、生徒が質問を持っていることを示す、小さな質問マークがコンソール内に表示されます。質問マークは、先生がその生徒とチャットするか、または「生徒の質問を消す」メニューを使用した場合に消えます。

生徒がこのアイコンを右クリックすると生徒ファイルフォルダが立ち上がり、「ファイルを送信/回収」機能がファイルを送信します。

注意: マンツーマン型の LanSchool をインストールしている場合（つまり、すべての生徒が個人用のコンピュータを持っているという前提です）には、生徒にも、参加したいチャンネルを選択するメニューオプションがあります。

ユーザインターフェースのヒント

LanSchool は、シンプルに、そして簡単に利用できるようデザインされています。毎日利用する主な機能は、LanSchool システムトレイメニューからアクセスできます。上級の機能のいくつかは、新しい LanSchool コンソールで利用可能になります。重要な機能はすべて、実際にやってみる、監視、制限、管理、ビューの 5 つのメニュー項目のうちの 1 つにグループされていたことを思い出してください。

以下は、LanSchool コンソールを使用するにあたってのヒントです。

LanSchool ツールバーボタン

LanSchool の機能を利用するには、生徒を選択し、使用しようとしている機能に対応する LanSchool ツールバーボタンを押します。ここでボタンが押され、明るい色に変わります。**同じ機能の使用を停止するには、ボタンをもう一度クリックします。**

LanSchool ツールバーボタンの中には、ボタンの右に小さい矢印の付いたものがあります。ボタンをクリックすると、その機能の追加オプションにアクセスできます。

Web・アプリケーション制限を利用可能にする

Web とアプリケーションの制限は、利用可能にする前に設定しておく必要があります。この機能はオプションメニュー内で設定でき、メニューまたはツールバーを使って有効にします。

注意: Mac 利用の生徒コンピュータでは、特定の web サイトの許可またはブロック機能は利用できません。Mac で web 制限オプションを選択すると、生徒コンピュータ上のすべての web ブラウジングをブロックすることになります。

マウスの右クリック

LanSchool コンソール内では、詳細またはサムネイルビューのいずれかで生徒コンピュータを右クリックすると、さらに詳しい機能にアクセスできます。

複数の選択

このリストに複数の（あるいは全部の）生徒を選択することができます。

複数の生徒を選択するには、Windows の標準的な「**CTR**」クリックを使用してください。また、全リストを選択する場合には、「**CTR+A**」のキーを押しても選択できます。詳細ビューでは、選択されたラインは青に変わります。サムネイルビューで選択すると、サムネイルビューの周囲に太い赤の線が付きます。サムネイル表示内では、別のサムネイルをクリックするだけで複数のサムネイルを選択できます。

希望する生徒を選択したら、その生徒を右クリックし、詳細オプションメニューを開き、ツールバーボタンまたはコンソールメニューをクリックできます。

生徒の選択を外す

生徒の選択を外すためには、コンソールの空白の部分をクリックします。

黙示的な全選択

「ブランク画面」や「生徒を表示」といった主要機能を使用可能にする際に生徒が1人も選択されていない場合、全部を選択したものと見なされます。例えば、「生徒画面をブランクにする」ボタンを、生徒を選択しないでクリックすると、すべての生徒の画面がブランクになります。

画面の更新

F5を押すか、メニューアイテム「ビュー-> 更新」を選択すると、探索を開始してコンソールを更新します。

並べ替え

標準設定では、詳細ビューは「ログイン名」コラムで、アルファベット順で並べられています。その他のコラムヘディングをクリックすると、リストは選択したコラムで並べ替えられます。

LanSchool システムトレイ メニュー

システムトレイメニュー内の LanSchool アイコンを右クリックすると、大部分の生徒が毎日使用する機能を含んだメニューが立ち上がります。

システムトレイアイコンを左クリックすると、生徒に対して実行しているアクションが停止され、新規の LanSchool コンソールが立ち上がります。

LanSchool メニューのホットキー

生徒コンピュータによってはタスクバーが表示されていないものもあります。表示されていないアイコンをクリックすることはできませんので、LanSchool 生徒のメニューは、<Ctrl><Alt>「L」のホットキーで開くことができます。（「L」は「LanSchool」を表します。）

サムネールの拡大

「すべてを見る」ボタンの拡大メニューを使えば、サムネール上に留まって、一時的に大きなサイズに拡大させる機能をオン、オフにできます。

選択のみ

サムネイルビュー内で、限られたコンピュータだけを見たい場合は、そのコンピュータを選択して、「すべてを見る」ボタン上の矢印の下にある「選択のみ」メニューを押します。

教室のレイアウト

教室のレイアウトでは、教室の形でサムネイルを並べることができます。教室のレイアウトは、自動的にサムネイルのそれぞれのサイズで保存されます。教室のレイアウト表示を変えるには、「すべてを見る」ボタンの右の矢印をクリックし、「教室のレイアウト」を選択します。

LanSchool v7.2 の新機能概要

LanSchool v7.2 には数多くの機能がありますが、それでもシンプルで、そして簡単に利用できるようデザインされています。

以下は、LanSchool v7.2 の新機能です：

生徒コンピュータの Mac 対応

LanSchool の生徒ソフトウェアを、Mac OS 10.4 および 10.5 で利用できるようになりました。Windows 版で利用できるほとんどの機能に対応していますが、現在のところ、特定の web サイトを許可/ブロックする機能と、投票・テスト機能には対応していません。

シンクライアント対応

はシンクライアント、ファットクライアント、シンとファットクライアント両方の混合に対応しています。対応する新クライアント環境は次の通りです：Windows 2003 ターミナルサーバ、Citrix および NComputing。

生徒のテスト

教師は、グラフィック(.jpg, .png, .gif, .bmp)を含んだテスト問題 100 題を作成できます。テストは、1 人以上の生徒に送付し、リアルタイムでトラックすることができます。教師は、オプションでテスト時間を計り、結果を.csv ファイルでエクスポートできます。(Mac 対応の生徒には利用できません)

無音化

教師は、生徒コンピュータの音を無音化できます。この機能は、無音ボタン、または「生徒のスピーカーを無音にする」メニューを使って使用します。

安全モード

LanSchool は、コンソールへのアクセスにパスワードを要求するよう設定できます。このパスワードは、生徒の安全インストール内で入力されたものと一致する必要があります。

ブランク画面の充実

ブランク画面のメッセージは最新ものの 10 通が保存され、ブランク画面ボタンの右矢印を使ってアクセスできます。ブランク画面のメッセージが生徒コンピュータに表示されると、画面に適したサイズ調整されます。

リアルタイムのキーストローク監視

キーストローク監視ウィンドウが開かれると、自動的に更新され、生徒のキーストロークがリアルタイムで表示されます。以前のキーストロークを見ようとスクロールを戻すと、スクロールがリストの最後に戻るまで自動更新は無効になります。

タスクマネージャ(PC)または行動モニター(Mac)の制限

タスクマネージャまたは行動モニターへの生徒のアクセスを制限したい場合は、このオプションをチェックします。

ツールバーの構成設定

ツールバーは、「ビュー」->「ツールバーの設定」でカスタマイズできます。また、「alt」キーを押しながらボタンを新しい位置にドラッグしても設定できます。ボタンをドラッグしてボタンのバーから外すこともできます。「ツールバーのカスタマイズ」ウィンドウで、ツールバーを標準設定に戻すこともできます。

バーにもっとボタンを増やしたい場合は、ツールバーの右上隅の「>>」ボタンを使ってアクセスできます。

アクティブディレクトリからの生徒名

LanSchool は通常、Windows または Novell のログイン名を表示します。新しいバージョンでは、アクティブディレクトリに生徒表示の名前があれば、その名前がログイン名コラム内に表示されるようになりました。

キオスクモードの LanSchool 教師用

LanSchool 教師用コンソールをキオスクモードで実行するためには、インストール マニュアル install.pdf を参照してください。

LanSchool v7.2 の機能概要

LanSchool v7.2 には、これまでのバージョンと同様次のような機能もあります。

生徒画面の全画面表示またはウィンドウ表示

生徒画面を同じ生徒チャンネルですべての生徒に表示することができます。

「全画面」か「ウィンドウ表示」の表示モードを選択できます。全画面モードでは、生徒の画面が生徒画面全体を覆い、生徒のマウス、キーボードをロックアウトします。

ウィンドウ表示モードでは、生徒の画面は生徒のコンピュータ上にウィンドウとなって表示されます。生徒はウィンドウのサイズを変え、生徒に従って学習します。

コンピュータ画面を生徒コンピュータに表示する場合、お使いのスピーカーからの音も伝送されます。この音によって生徒は、LanSchool セッションが始まろうとしていることを知ります。この音を変更したい場合は、「c:\program files\lanschool\start.wav and stop.wav」を自分のサウンドと交換します。

サムネールモード(監視)を見る

最大 250 の生徒サムネールを一度に、鮮明な色彩で見ることができます。各生徒画面は、LanSchool コンソール内に「サムネール」として表示されます。サムネールには 4 種類のサイズがあり、自動的に最適な大きさにフィットします。「すべてを見る」ボタンをクリックして、「選択したものを見る」オプションをチェックすれば、選択した生徒だけを表示するようにすることもできます。

教室のレイアウト

サムネールを教室の形で並べ替えることができます。各サイズのサムネールには、それぞれのレイアウトがあり、自動的に保存されます。

サムネールの拡大

サムネールに近づくと、サムネールのサイズが素早く大きくなります。この機能を使いたくなければ、「すべてを見る」ボタンをクリックし、「拡大」オプションからチェックマークを外して、機能を切ることもできます。

アクティブのアプリケーション/ウェブサイトアイコン

サムネールの右上部の隅には、アクティブのアプリケーション、ウェブサイトのアイコンを見るためのオプションがあります。

リモートコントロール

選択した生徒の動きを制御することができます。言い換えれば、選択した生徒のコンピュータ上のマウス、キーボードをリモートで 사용할 ことができます。LanSchool では、ログインのプロンプトでコンピュータをリモートコントロールすることができます。**リモートコントロール中にコンピュータに ctrl-alt-del コマンドを送信するためには、コントロールボタンの V 字をクリックして「Ctrl-Alt Del メニューを送信」するか、「監視」から Ctrl-Alt Del メニューを送信**します。

生徒のウェブブラウジングを制限する

全部または一部の生徒の Internet Explorer や Netscape、Mozilla、Opera、その他代表的なブラウザへのアクセスを一時的に無効化できます。

オプションダイアログ内で、すべてのウェブ活動をブロックする、一定のウェブサイトを許可する、または一定のウェブサイトをブロックする、から選択できます。この機能は「オプション」ダイアログ内で設定する必要があり、その後で「Web 制限」ボタンまたはメニューアイテムをクリックして機能を有効にします。

許可と禁止のリストが、「*」、「?」ワイルドカードを認識するようになりましたので、一定の種類のウェブサイトの制限が簡単になります。

インターネットが使用できなくなっている間、生徒および生徒のコンピュータ上のアイコンが、ウェブが使用不可になっていることを示します。

注意: Mac で web 制限オプションを選択すると、生徒コンピュータ上のすべての web ブラウジングをブロックすることになります。

生徒アプリケーションを制限

指定したソフトウェアアプリケーションに対する生徒のアクセスを、一時的に、全面的、部分的に無効化することができます。この機能は「オプション」ダイアログ内で設定する必要があり、その後で「アプリ制限」ボタンまたはメニューアイテムをクリックして機能を有効にします。

生徒プリンタの無効化

一部または全部の生徒のプリンタを一時的に無効化することができます。無効化すると、教師がプリンタ使用を再度有効化するまで生徒はプリンタを使用できません。

USB 接続ガム型ドライブ(親指ドライブ)の制限

コンソールから、生徒がガム型(親指)ドライブを USB に接続するのを制限できます。USB のキーボード、マウスには影響しません。このオプションは、Mac および Windows 2000 以降でのみ使用できます。

キーストロークとアプリケーションのモニタリング

利用者がコンピュータに加えたすべてのアプリケーションとキーストロークを監視します。この機能は、ログイン時の応答で加えられたキーストロークまたはパスワードのダイアログでは対応せず、また、Mac および Windows 2000 以降でのみ使用できます。

画面をブランクにする

チャンネル上の全生徒画面をブランクにし、全生徒のキーボードとマウスを無効にできます。メッセージは、「オプション」メニューでカスタマイズできます。この機能は、コンピュータで遊ぶ生徒に邪魔されずに授業をしたい場合に便利です。

生徒の投票

LanSchool コンソールから、「はい/いいえ」を尋ねたり、多項選択の質問を出したりして、応答した生徒の人数や状態をリアルタイムで見ることができます。

注意: この機能は Mac では利用できません。

生徒画面の表示

生徒画面を他の生徒全部に送信したいという場合があるかもしれません。こうした場合は、その生徒を選択し、「生徒を示す」ボタンを押すだけで簡単に実行できます。ボタンが有効になっている間、その生徒は自分のコンピュータを動かすことができ、画面はクラス内のその他の生徒に表示されます。

改ざん防止コントロール

LanSchool 7.2 は生徒が不正にソフトウェアをアンロードしたり、ネットワークケーブルを接続したままで教室の邪魔をしたりすることを許しません。

ファイル送信と回収

ファイルを生徒コンピュータに送信し、その後で回収することができます。

メッセージの送信

一部または全部の生徒にメッセージを送信できます。これは、しばしば、気が散っている生徒をタスクに戻す効果的な方法です。

生徒の質問

生徒は、LanSchool アイコンをクリックして、先生への質問を入力できます。質問のマークが、生徒のコンピュータまたはサムネールに表示されます。「詳細」ビュー内の、「最近の質問」コラムで生徒からの質問を見ることができます。サムネールでは、質問がツールチップに表示されたサムネールのイメージにマウスをあてると、生徒の質問を見ることができます。質問マークは、教師がチャットセッションをするか、サムネールを右クリックすれば消えます。

テキストチャット

生徒は、単独の生徒とテキストベースのチャットを開始することができます。

マンツーマンの強化点

マンツーマンの学校に対応する特別なバージョンの LanSchool もあります。(各生徒と先生が1台ずつ個人のラップトップコンピュータを持つ学校です。)) LanSchool の Setup_One2One.exe がインストールされていれば、教師は、生徒がクラスに参加したり退席したりするのをモニタすることができます。教師はまた、現在クラスにいる生徒のリストを、前に保存した生徒のリストと対比させることもできます。これにより、欠席している人や、加わるべきではないのにクラスに加わっている人を簡単に確認できます。

シャットダウン、ログオフ、再起動

コンソールから生徒コンピュータを簡単にシャットダウン、ログオフ、または再起動することができます。

セキュリティステータスの監視

LanSchool セキュリティ監視ツールは、「ビューステータスウィンドウ」をクリックしてアクセスできるようになりました。独立のアプリケーションを使って不正の生徒コンソールを探し出す必要はもうありません。この機能は、全 LanSchool トラフィックを表示しますので、否認証の LanSchool 活動を識別することができます。

また、これまで通り、ダウンロードした製品のユーティリティフォルダ内にあるコマンドラインツール security.exe を起動して、LanSchool の全活動をファイルとしてログすることもできます。

生徒が実行しているアプリケーションを見る

生徒コンピュータ上で実行されているアプリケーションを見て、それらのアプリケーションを許可またはブロックリストに加えることができます。

画面に書く

教師は線や丸などを書いて画面の一部に特別な注意を向けさせるようにすることがあります。このオプションを使えば、画面に「赤ペン」で書き込むことができます。マウスの左ボタンを押して、マウスを動かして書きます。このモードを終わらせるには、画面の右上隅の X 印をクリックして「画面に書く」ウィンドウを閉じます。

見やすいマウスカーソルの動き

生徒が教師のカーソルを見やすくするために、生徒ビューには大きな赤いカーソルが表示されます。このカーソルは実際のカーソルと同じ形ですが、大きさが 4 倍大きく色は明るい赤になっています。

生徒画面のスナップショット

生徒がコンピュータを誤用した場合、「スナップショット」ボタンをクリックすれば、簡単にその生徒の画面を標準のグラフィックファイル(bmp)に保存することができます。

保存したファイル内には、日付、時間、生徒のログイン名が表示されます。このファイルは、Paint などの代表的な Windows アプリケーションで簡単にインポートすることができます。

対応

コンピュータが NetWare クライアントソフトウェアを使用している場合、LanSchool 7.2 では、Microsoft のログイン名ではなく NetWare のログイン名を使用します。

マルチキャスト対応

TCP/IP を使用することの利点のひとつは、マルチキャストを利用できることです。マルチキャストを利用すれば、ネットワーキングのハードウェアはローカルの LanSchool の各コンピュータとクロスサブネットへの LanSchool トラフィックを保持することができます。ネットワークルータまたはスイッチによってはマルチキャストに対応していないものもありますので、このオプションは標準設定では無効になっていますが、簡単に有効に変更できます。

生徒の電源オフ

すべての生徒コンピュータに対して、ログオフ、再起動または電源を切ることができます。このオプションはコンピュータのクラス環境の時間を大きく節約できます。

この機能は Windows 9x のコンピュータでは問題が発生する可能性があります。Microsoft はこの機能は一定のハードウェア上では動作しないと明言しています。Compaq、Dell および IBM のコンピュータ上では正常にテストされていますが、Windows 98 または ME の OS を実行するあらゆるブランド、モデルのコンピュータ対象として電源を適切に切れるというわけではありません。(Microsoft Knowledge Base Article Q220706 を参照してください)。

電源オンまたはウェイクオン LAN

生徒コンピュータが「ウェイクオン LAN」テクノロジーを利用するよう設定されていれば、LanSchool 教師は、全生徒の PC の電源を入れることができます。これは毎朝の時間の節約に大きく貢献します！「ウェイクオン LAN」オプションを搭載して出荷されている大部分のコンピュータは BIOS 内で機能をオフにされていますので、起動時に BIOS 設定でオンにする必要があります。

チャネルのグルーピング

生徒は任意のチャネル番号を合わせてグループ化してコントロールすることも、任意の数のチャネルを一括してグループ化して全部のチャネルを同時にコントロールすることもできます。

閲覧のみ

この機能を使えば、選択した生徒のコンピュータを監視することができます。監視中、生徒の動向のすべてを見ることができますが、生徒のキーボード、マウスをコントロールすることはできません。

すべてを見る

クラス内のすべてのコンピュータ画面を、小、中、大、極大のサムネールで表示することができます。ビューは数秒ごとに更新されます。

マウスをサムネールの画像の上にあてると、生徒のログイン名とその画像のコンピュータ名がツールチップ内に表示されます。生徒が教師に質問がある場合、その質問もこのツールチップ内に表示されます。マウスを 1 秒程度留まらせると、サムネールが大きくなります。サムネールビューを右クリックすると、その生徒をコントロールするための各オプションのメニューが出てきます。

リストの更新(F5)

生徒のリストは「静的」リストです。このボタンを押すと、リストを更新し、クラスに入ってきた新しい生徒を見ることができます。

プログラムの実行

このプログラムを利用すれば、生徒コンピュータ上でアプリケーションまたはウェブサイトを実行することができます。この機能は、若年の生徒が特定の web アドレスにアクセスしようとしたリアプリケーションを起動しようとして問題が発生する場合に非常に便利です。

選択した生徒へのファイルの配布と回収

このオプションを使えば、生徒コンピュータにファイルを配布したり、回収したりすることができます。この機能を使用する場合、生徒はログインしている必要があります。

ファイル回収時には、教師コンピュータ上の宛先となるフォルダを指定します。LanSchool はそこに各生徒ファイルのためのサブフォルダを作成します。サブフォルダの名前は、[生徒ログイン名]-[生徒コンピュータ名]となります。このようにして各生徒からファイルを回収しながら、教師コンピュータに生徒を向かわせることができます。

通常モードでは、特定の1ファイルを全生徒に送付する場合、「ファイルを生徒に送付する」を使用します。しかし、各生徒に異なったファイルを送付する場合にはこの使用は非常に便利で強力なものとなります。

考慮すべきシナリオ:

全生徒はローカルでタイプできるアプリケーションを使用しています。このアプリケーションは生徒が現在完了した課題を、「C:\LanSchool Files」内のローカルのデータファイルに保存しています。LanSchool はそれらのファイルを全生徒のコンピュータから簡単に読み出し、各ファイルを教師コンピュータ上の独立したフォルダに保存します。このフォルダ名は常に、[ログイン名]_E[コンピュータ名]となります。(c:\My Documents\steve-row3\data.dat”)

教師がこれらのデータファイルをクラス開始時ごとに、前日のクラスデータと交換することができれば非常に便利なものとなるでしょう。LanSchool は、「ファイルを生徒に送信する」ダイアログ内の擬似フォルダ作成を許可します。擬似フォルダは、「%生徒%」と名付けられます。

ローカルファイルが最初に「C:\My Documents\ClassSix 」にとり込まれた場合、ファイル名「C:\My Documents\ClassSix\%STUDENT%\typing.dat」と指定して各生徒のファイルをコピーして戻すことができます。LanSchool は擬似フォルダ「%生徒%」を見つけた場合、現在指定されている生徒の実際の [ログイン名]-[コンピュータ名]と置き換えます。複数の生徒が選択されている場合、擬似フォルダは各生徒に拡張されます。

メッセージの送信

一部または全部の生徒にメッセージを送信できます。メッセージは、生徒コンピュータの下部、右手隅に表示されます。

インターネット履歴の表示

現在選択されている生徒が当日に訪れたウェブサイトを示します。この履歴は Internet Explorer の「履歴ログ」から入手します。この仕組み上、生徒が **Internet Explorer 以外のブラウザを使用している場合**、または生徒が Internet Explorer の履歴ログを消去した場合には**ウェブ履歴は表示されません**。

Mac では、ウェブブラウザ Safari を使った「インターネット履歴の表示」のみ対応しています。

メニューで、教師から生徒コンピュータになる

先生コンピュータを一時的に生徒コンピュータにしたければ、コンソールからできます。「管理者」をクリックして「生徒コンピュータになる」をクリックするだけです。生徒コンピュータの状態は再起動するまで続きます。

選択した生徒をクラスから取り除く

この機能は、選択した生徒のコンピュータ上の LanSchool ソフトウェアを一時的に無効化します。ソフトウェアは、生徒が次回コンピュータにログインする時か、生徒コンピュータ上で「選択した生徒をクラスに戻す」を生徒が使用した場合に、再度有効化されます。

生徒のコンピュータが無効になっている場合でも、リスト上には表示されます。しかし、コンピュータ画面上に停止を示すグラフィックスが表示されます。これはその生徒が LanSchool によってコントロールされていないことを教師に思い出させるためにあります。

生徒の表示名を変更する

このオプションは実際に、生徒の Windows 上の名前を変更するわけではありません。その代わりに、LanSchool のコンピュータ名リスト内に別の名前を表示させることができます。お使いのコンピュータが意味のあるコンピュータ名を持っていない場合、このオプションを使ってコンピュータに使いやすい名前を付けることができます(例:「列 1 コラム 5」)。

選択した生徒コンピュータのログオフ、再起動、電源オフ

一日の終わりに、すべてのコンピュータをログオフ、再起動または電源オフする際に便利なオプションです。個別のコンピュータを1台ずつシャットダウンしていくのではなく、教室内のすべてのコンピュータ全部を選択して適切にスイッチオフすることができます。

生徒の質問

生徒は質問を入力して教師に送ることができます。質問は、先生がサムネール上にマウスを浮かせるか、詳細表示内の「最新の質問」コラムを開けると表示されます。

選択した生徒の LanSchool を更新

選択した生徒のコンピュータに LanSchool の新規バージョンを手早くインストールする際に使用します。この機能を有効にする場合は、『インストール・ガイド』で詳細を参照してください。

コンソールから生徒チャンネルを変更しています..."

教師は、コンソールから生徒チャンネルを変更できます。以前のバージョンでは、チャンネルの変更方法は、再度インストールするか setchannel.exe を実行するかだけでした。これは、**「EnableChannelSelect」ユニティで管理者が対応できる必要があります。**

オプション

LanSchool の動作方法を設定できます。以下の「構成設定オプション」セクションを参照してください。

注意: お使いのコンピュータに LanSchool を設定したシステム管理者は、インストール中に各種設定を最適化している可能性があります。カスタムオプションに変更を加える前に、システム管理者に相談してみてください。

LanSchool のセキュリティ モニタリング

LanSchool のように強力なツールでは、常に誤使用の可能性があります。生徒が認証されていないコピーを探したり、教師ソフトウェアを読み込んでみたい誘惑にかられ、クラスの進行を妨害してしまうこともあり得ます。

潜在的な誤使用に対処するためには 2 つの方法があります。

1. 適切な行動についての学校の方針を設定し、その方針を監視、実行する。
2. LanSchool v7.2 を、パスワードが必要な安全モードでインストールする。

学校がトレーニングラボで適切な行動についての方針を設定し、方針に違反した場合には罰則を設けるというのが一般的にはより有効で簡単な方法です。LanSchool は方針を速やかに実行できるよう支援します。生徒の画面をブロードキャスト、閲覧、ブランクアウトする場合、あるいは、生徒を教師チャネルリストから削除する場合、毎回、該当する生徒コンピュータのレジストリにエントリーが作成されます。

エントリーは、「デジタルフィンガープリント」で、実行されたアクションの種類、時期および実行者が示されます。LanSchool の誤使用に関して疑わしい人物がいる場合、Windows のユーティリティ REGEDIT を使って、任意の生徒のローカルレジストリを見て、直ちに該当する人物を特定します。

REGEDIT を使用して LanSchool アクションを見る

- 1 生徒コンピュータで、スタートから「ファイル名を指定して 実行」をクリックします。
- 2 テキストボックス内に、**regedit** とタイプします。をクリック をクリックいくつかのフォルダと共に、レジストリエディタのウィンドウが現れます。
- 3 コンピュータ上で発生している任意の LanSchool アクションについての情報を、キー HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\LanSchool で見ます。

セキュリティモニタは、ダウンロードした LanSchool のユーティリティフォルダでも利用できます。このアプリケーションは、どのコンピュータでも実行できるもので、LanSchool プログラムのインストール、アンインストールを含む、LanSchool のアクティビティについてのログを作ります。多くの学校では、このユーティリティでコンピュータラボの「適切な使用についての方針」を破った生徒を迅速に特定しています。このユーティリティについての詳しい説明は、同じフォルダ内のセキュリティ.pdf ファイルにあります。

LanSchool v7.2 では、「ビュー」、「ステータスウィンドウ」を続けてクリックしても、「セキュリティ監視データ」にアクセスできます。コマンドラインユーティリティを始動する必要は必ずしもありません。アクションを実行次第、セキュリティログインデータが表示されます。

前のバージョンでは、LanSchool のデモバージョンをダウンロードしてインストールした生徒たちが最大のセキュリティ問題を引き起こしました。LanSchool v6.1 をはじめ、デモバージョンはリリース済のバージョンとの連携はありません。生徒たちが完全なバージョンの購入に興味があったとは思えず、単純に悪ふざけをしていたのだらうと思われます。しかし、そうだとすると、上記の手順を使えば、違反をしている生徒を迅速に特定できます。

LanSchool の構成オプション

このオプションダイアログには、管理者と教師両方に関する設定が含まれています。以下は、教師が変更する可能性のある設定です：

全画面またはウィンドウ表示

- 全画面表示では、生徒画面上に教師の画面を全面的に表示し、生徒のキーボード、マウスを使用できなくします。
- ウィンドウ表示では、生徒画面上に教師の画面をサイズ変更可能なウィンドウで表示し、生徒のキーボード、マウスは無効化されません。

ブランク画面のメッセージ

- この機能により教師は、生徒画面がブランクの場合に表示されるメッセージを指定できます。

Web 制限

- Web 制限有効化の時期と条件を指定します：
 - すべてのウェブブラウジングをブロック
 - 次のウェブサイトのみ許可
 - 次のウェブサイトをブロック
- ウェブサイトリストの保存と読み込み (.lsu ファイル)

注意：Mac で機能を選択すると、ウェブブラウジングがすべて無効になります。

アプリケーション制限

- アプリケーション制限有効の時期と条件を指定します：
 - 次のアプリケーションのみ許可
 - 次のアプリケーションをブロック
- アプリケーションリストの保存と読み込み (.lsa ファイル)
- アプリケーションを許可またはブロックのリストに追加するためには、オプションダイアログ内の追加ボタンをクリックするか、「生徒の実行プログラムを見る」をクリックします。オプションダイアログは、教師 PC 上で実行中のアプリケーションを表示します。
- 生徒コンピュータ上のタスクマネージャが有効になります。標準設定では無効になっています。

生徒サムネールのサイズ

- 生徒コンピュータの監視中、教師はアイコンサイズの小、中、大、極大または「最適化」を指定できます。

現在のアプリケーションのアイコンをサムネールで表示

- 有効になっている場合に、この機能は生徒 PC 上で現在実行中のアプリケーションを、サムネールの左上隅にアイコンで表示します。

最新訪問したウェブサイトのアイコンをサムネールに表示

- この機能が有効になっていると、生徒が最近訪問したウェブサイトが、サムネールの右上隅にアイコンで表示されます。

生徒コンピュータの LanSchool フォルダのフルパス

- 生徒ファイルの標準設定の場所を教師が指定できます。このパスは、ローカルドライブでもネットワークドライブでもかまいません。

注意: ネットワークタブなどの付加的なオプションは、『インストール・ガイド』で説明されています。また、これらの設定の変更はシステム管理者のみが行うようにしてください。